

全体的にみると、国語・算数・理科ともに全国平均をほぼ上回る結果となりました。学習内容の領域別にみると、算数では「図形」、理科では「エネルギーを柱とする領域」が大変良好です。国語では「書くこと」に課題が見られました。問題形式別では、国語、算数、理科とも「記述式」が良好であることが分かりました。

国語

◎物語を読み、複数の叙述を基に、登場人物の気持ちや相互関係を捉え、物語全体から伝わってくることを考える力が優れています。

▲文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えたり、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見つけたりする問題に課題が見られました。

算数

◎図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解したり、図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方について考察して記述したりする力に優れています。

◎具体的な場面に対応させながら、乗法を用いたり、公倍数や公約数を用いたりする技能や、目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る技能が身につけています。

▲示された場面において、数を大きくみたり小さくみたりして、切り捨てや四捨五入などの数の処理の仕方を考えたり、日常の具体的な場面に即して、数量が変わったときの割合についてまとめたりすることに課題が見られました。

理科

◎「エネルギーに関する問題」では、特に、自分で発想した実験の方法と追加された情報を基に、実験の方法を検討して改善し、自分の考えをもつことができます。また、実験の結果から、問題の解決に必要な情報を取り出しやすいように記録することができます。

今回の結果を踏まえてこれから力を入れて取り組んでいくこと

国語

- ・話す力・聞く力をつけるために、集会やスピーチタイム、友達の話聞いた後などに、感想を言ったり書いたりする活動を取り入れていきます。
- ・自分の文章の良いところを見付けることができるようにするために、書いた目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝え合ったりすることを授業に取り入れていきます。

算数

- ・文章問題の理解を深めるために、絵や図を書いてから立式して問題を解くようにしていきます。また、新たな解決方法に気づいたり、自分の考え方を見直したりできるように、ペア学習・グループ学習などの学びの場を設けていきます。
- ・学習したことを、日常の具体的な場面に対応させて理解することができるような活動を取り入れていきます。

理科

- ・記述する力をさらに伸ばすために、観察や実験の考察をキーワードを使って、できるだけ自分の言葉で記述できるようにしていきます。また、考察の結果生じた疑問を基に問題を設定し、記述することができるようにしていきます。

※次回号では、生活習慣や学習状況等に関する調査結果についてお知らせいたします。

大関のこども



坂井市立大関小学校

学校だより第23号
令和4年10月26日

HPアドレス 
<http://www.ozeki.ed.jp>

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果から見た大関小学校児童の姿

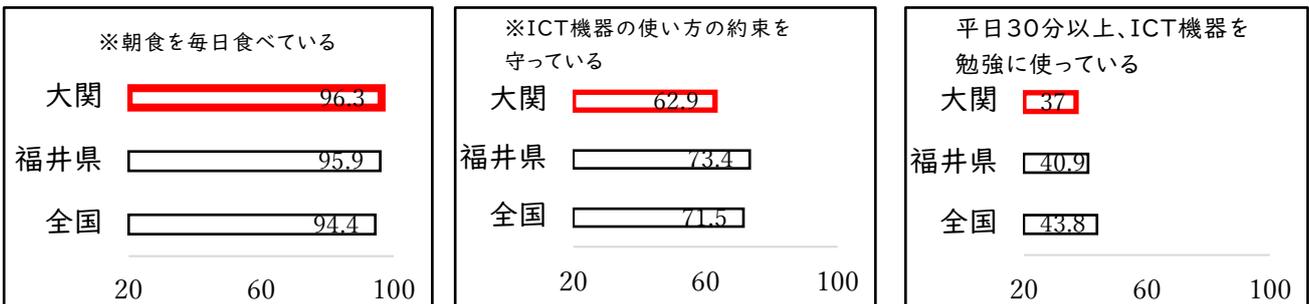
全国学力調査では、「生活習慣や学習環境による質問紙調査」も併せて行われています。今回は、先週配付しました全国学力・学習状況調査の教科に関する調査結果に引き続き、生活習慣や学習状況等に関する調査結果について、主なものを抜粋しお知らせいたします。

学校では、今回の結果をもとにさらなる教育活動の工夫と改善に取り組んでまいります。ご家庭におかれましても、分析結果を参考にいただき、ご家庭での生活習慣や学習習慣の改善にお役立ていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2 生活習慣や学習状況等に関する調査結果

- ・ 県・全国に比べ良好なこと…◎ 県・全国に比べ課題となること…▲ 結果をふまえて…□
- ・ ※印の項目の値は、肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）の合計
- ・ グラフの単位は（％）

○生活習慣について



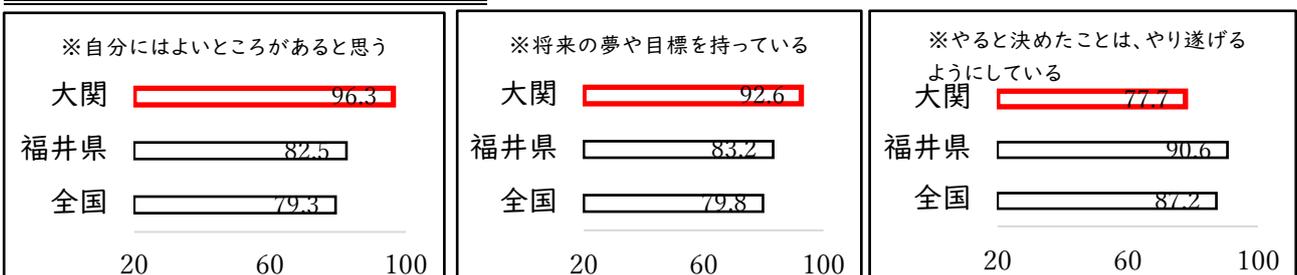
◎朝食を毎日食べていると回答した児童は、県・全国の平均を上回っています。

▲携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていると回答した児童は、県・全国平均を下回っています。

▲平日で長時間ゲームをしたり動画を視聴したりしている児童の割合は県・全国平均を上回っています。一方、勉強のためにICT機器を使っていると回答した児童の割合は県・全国平均を下回っています。ICT機器を学習に使っている児童が少ないことが明らかになりました。

□タブレット端末の持ち帰りを進め、デジタルドリルを活用したり、調べ学習に活用したりするなど、家庭での学習においてICT機器を利用する場面を増やすことに努めます。

○自分自身に関することについて

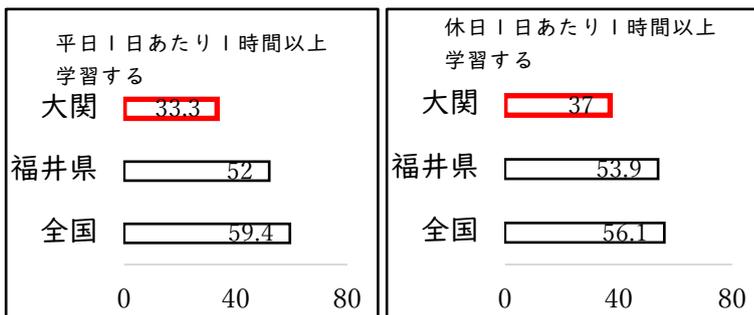


◎「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」という児童の割合は、県・全国平均を上回っています。自身のよいところに気づき、将来の夢や目標をもち、前向きに生活している児童の姿が見られます。

▲「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答した児童の割合は、県・全国平均を下回っています。自分で決めたことでも、最後までやり遂げることができない児童が2割程度いることがわかります。

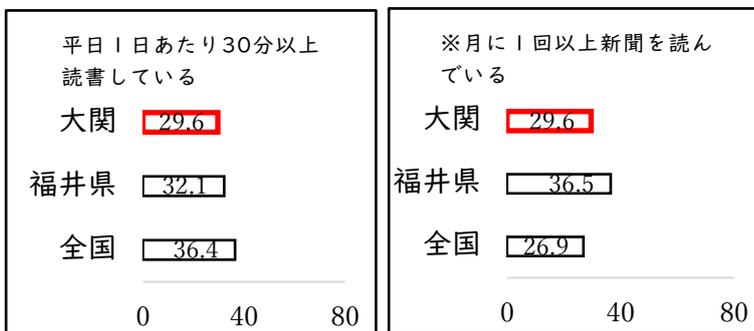
□今後も、ポジティブ教育を推進しながら、児童一人一人を誉め認めることで、児童自らが自分の良さを理解し、自己肯定感や自己有用感が高まる取組をさらに進めていきます。そして、様々な活動に自信をもって明るく前向きに、最後まで取り組むことができるたくましい児童の育成を目指していきます。

○家庭での様子について



▲「平日1日のあたりの学習時間が1時間以上」、「休日1日あたり1時間以上学習する」と回答した児童の割合は、いずれも県・全国平均を大きく下回っています。また、平日に「30分より少ない」と答えた児童も2割程度いるなど、家庭での学習時間が少ないことがわかりました。

□自ら計画を立て、進んで学習に取り組める児童の育成を目指し、引き続き学習に応じて課題の出し方を工夫したり、宿題以外に学習の定着のための自主学習のやり方を提示したりしていきます。

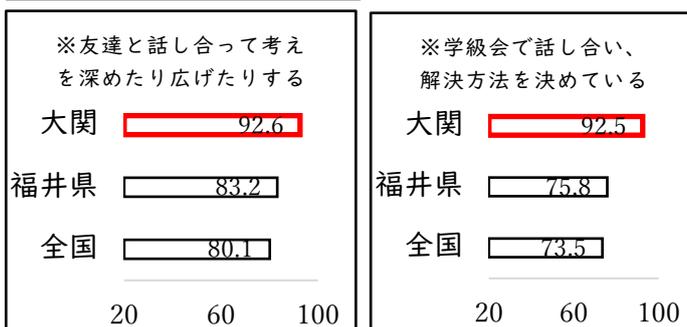


▲「読書が好き」と回答する児童は9割を超えているものの、「平日一日あたり30分以上読書している」と回答した児童が3割しかおらず、県・全国平均を下回っています。また「10分より少ない」または「全く読まない」児童が約4割おり、読書時間が十分ではないという傾向が見られました。

◎「月に1回以上新聞を読んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は、県平均を下回っているものの、全国平均は上回っています。逆に「全く読まない」と回答した児童が3分の2を超えていることもわかりました。

□学校では一日10分、一週間で50分の読書時間を確保しています。今後も、家庭における週末読書や親子読書を通し、読書量を増やす取組を継続していきます。

○学級での様子について



◎「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「学級会で話し合い、解決方法を決めている」と回答した児童が9割を超え、県・全国平均を大きく上回っています。

□今後も、学習場面で考えを深めたり広げたりできるように意見交換の時間を設けたり、学級での話し合い活動の機会を確保し、集団での合意形成を図る経験を重ねたりするよう努めていきます。